

## LME 銅は閑散相場続き反動売りで値を下げる NY銅は4営業日振り下落、LME 錫は独歩高に

6日入電のLME銅相場は前日比52.5ドル安の6,969ドルと続落。閑散相場が続き反動売りで値を下げて引けた。

NY銅相場は0.25セント安の316.70セントと4営業日振り反落。欧中指標軟化で売られた。

NYカーブは6,976.50～6,979.75ドルとなり、LME先物比7.88ドル安となった。

### 錫はドル安を受け独歩高に

LME錫相場は110ドル高の2万1,215ドルと続伸。ドル安を受け上昇、独歩高となった。

### 鉛はドル安を支えに小幅高

LME鉛相場は1ドル高の2,115.5ドルと続伸。ドル安を支えに小幅高で引けた。

### 亜鉛は銅下落に追随し値を下げる

LME亜鉛相場は20.5ドル安の1,822.5ドルと反落。銅下落に追随し値を下げて引けた。

## 橋本健一郎氏のアルミスクラップ7月レポート及び8月見通し

■概況: 前半は5月のイタリア失業率が12.2%と過去最低だった事、ユーロ圏失業率が12.1%と更に悪化した事、またアメリカ失業保険申請件数が予測を大幅に下回るなどマイナス材料もあったが6月の米ISM製造業景況感指数が50.9と予測を上回った事、ECB(欧州中央銀行)、EOB(英中奥銀行)が利下げに関するコメントを発した事を好感し1802ドル(現物後場買戻い)と前月最終価格から約57ドル上昇しての前半締めとなった。

後半は6月の中国銅輸入が+11%と9ヵ月ぶりの高水準だったこと、7月のユーロ圏PMI指数が50.4、米PMI指数が53.2といずれも予測を上回るなどプラス材料があったものの 中国の19業界への余剰生産削減命令や全国債務調査の実行、6月の中国鉱工業生産が+8.9%と予測の9.9%を大幅下回り、米住宅着工件数が予測以下だったなどマイナス材料から一時1730ドル近辺まで下落。ただその後7月中国製造業PMI指数が予測を上回る50.3と景気判断の50を上回った事を好んで下げ幅を圧縮。8月3日現在、LME(現物後場)1780ドルと前半締めから22ドル下落してのスタートとなつた。

■前月の経済指標: 日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-9.5%の89万3145台であった。日本自動車販売協会連合会によると

### アルミは閑散相場の反動売り

LMEアルミ相場は26ドル安の1,754ドルと続落。閑散相場の中、反動売りで下落。LMEアルミ合金は9ドル安の1,757ドル、北米特殊アルミ合金は13ドル安の1,798ドル。

### ニッケルは銅下落から後場下げに

LMEニッケル相場は95ドル安の1万3,825ドルと反落。銅下落から後場下げに転じた。

### KLTM錫は13.8セント続伸

採算値は9,000円安

KLTM錫は前日相場と比べ13.8セント高の68.121Mドルと続伸。USドルは150ドル高の2万1,100ドルと2万1千ドルを回復、出来高は45トン。Mドル/USドルレート=3.2285とTTSレート99.02円で換算した採算値は9,000円安の209万4,000円、諸掛込みの採算値は9,000円安の225万4,000円。

### 自動車販売台数(軽除く)は前年比-13.5%の28万4314台。国土交通省統計による新設住宅着工戸数は前年比+15.3%の8万3703戸であった。

貿易指標を見ると、財務省貿易統計による輸出は、アルミ新地金が前月比-74.1%の30t、2次合金が+20.7%の1010t、スクラップが+2.7%の13079t。輸入は、新地金が前年比-6%の11万2736t、2次合金が-15.1%の7万7278t、スクラップが-28.8%の489t。合金スクラップは-15.7%の3273t。また、前月の国内指標を見ると、日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向による板類・押出生産合計は前年比-5.8%の16万6288t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前年比-0.4%の6万6849tであった。

■見通し: 7月は、中国景気後退懸念と対策・米国金融緩和縮小時期に一喜一憂した月となつ

	4月	5月	6月
生産台数	74万7730台	73万2714台	89万3145台
前年比	-6.5%	-6.2%	-9.5%
5月		6月	7月
販売台数	21万9099台	26万6913台	28万4314台
前年比	-7.3%	-15.8%	-13.5%
4月		5月	6月
新設住宅着工戸数	7万7894戸	7万9751戸	8万3704戸
前年比	+5.8%	+9.4%	+15.3%

た。中国の4~6ヶ月期のGDPが+7.5%と0.2ポイント減少したがその対策についての東京区のコメントが右往左往したことやFRBバーナン基調の金融緩和縮小時期についてのコメントが時期を決めない方向に変化し出した。

自動車生産は前年比-9.5%の10カ月連続マイナス。国内向け-10.8%、輸出向け生産-4.5%と共にマイナスへ。販売の方は2カ月連続二桁悪化前年比割れの-13.8%。貨物車は前年並みだったものの、乗用車が小型-20%、普通-10%と共にマイナスだった。新設住宅着工戸数は先月に続き10カ月連続増加となる前年比+915.3%(前月比(季節調整済み)-5%)の83704戸。今月も唯一堅調な住宅関連。分譲住宅+24.3マンションが+46.3%と大幅増。ここ最近の消費マインドの改善。消費税、住宅減税その他の政策の動向に注目。自動車関連のアルミ2次合金生産は前年比-0.4%と2カ月ぶりマイナス。国内自動車生産の減少から圧延・押出品生産数は前年比-5.8%、8カ月連続マイナス。圧延に関して、缶材は6月のビール系飲料の出荷は-4.5%だったことや缶メーカーの在庫調整から-9.1%。自動車向けは6月の新車販売台数が-13.8%による受注減やエコカー減税の反動、中国・アジアへの輸出が-15.6%だったことから-10.5%だった。

輸出は新地金が前年比-74.1%の30t、2次合金が+20.7%の1010t、スクラップが+2.7%の1万3079t。内需に伴い用途が多い新地金は減少。それ以外は2次合金も含め大幅な円安を背景に輸出増との見解。輸入は新地金が前年比-6%の11万2376t、2次合金は-15.1%の7万7278t、スクラップは-28.8%の489t、合金スクラップは-15.7%の3273t。前月に続き、新地金は携帯電話や電気関連の板・条需要の不振や円安からの割高感のため輸入塊は減少、2次合金・スク

ラップは国内自動車生産不振から減少と見解。

アルミ需給に関しては、住宅関連は新設住宅着工数が前年比+15.3%10カ月連続増加、分譲マンション+46.3住宅+24%と絶好調。ただ自動車は生産が10カ月連続前年割れが続き内需不安から不透明。6月国内販売台数も-13.8%と大幅悪化。消費税増税前の駆け込み需要以外は目新しい需要増材料はなく、また来年以降の話であることから現実味に欠ける。また中国景気後退懸念や米国金周緩和縮小時期の延長のため100円を超える円安も望めず。ただ国内生産減少による発生減、円安を背景とした原料輸出もいまだ続いている。需給の悪化は今月も続く。

LME価格に関しては、今月は特に中国の経済政策に左右される。中国の経済政策に関しては当局や政治家の発言が割れておりその都度個別の材料にマーケットは反応している。基本スタンスとしては環境問題を含んだ過剰生産の抑制やシャドーバンキング問題の解決などは明確化されたことからこれまでのような投機資金調達は期待できず、やや引き締め気味になる。ただ中国製造業PMIは予測を上回り50.3と景気判断の50を上回ったことから今後改善する可能性もあり、そうなれば米景気の回復も相まって相場は持ち直すとの予測から上値は6月最高値付近もう一段高の1850ドル。

下値は前月に続き中国HSBCのPMI(製造業景況感指標)が景気判断の50を割ったことから警戒感が強く、更に悪化すれば暴落する可能性があるとの予測から直近安値付近の1700ドル。スクラップ価格についてはLME価格が上記中国指標により悪化する可能性はあるが国内需要の引き継ぎ感から一方的な下げ圧力にはならず0から-5円程度の値下げがあるとの予測。

輸入	4月	5月	6月
新地金	15万4996t	11万1401t	11万2376t
前年比	-8.8%	-15.5%	-6%
二次合金	9万0763t	9万3692t	7万7278t
前年比	+3.9%	-10.9%	-15.1%
スクラップ	820t	716t	489t
前年比	+20.4%	-0.7%	-28.8%
合金スクラップ	3805t	3529t	3273t
前年比	+1.4%	-4.1%	-15.7%

